

第13回米百俵賞受賞

(平成21年6月15日表彰)

バイマーヤンジン (大阪府吹田市)



故郷チベットに教育を普及させるため、日本でチベット民謡の公演活動を行いながら、私財を投じて小学校の建設や奨学金の支給を行った。

■受賞時プロフィール

バイマーヤンジン氏が生まれ育ったチベットには、学校のない地域も多く、また、字が読めないなどの理由で経済的な貧困に苦しむ者や、不当な扱いを受ける者も多い。

氏は国立四川音楽大学を卒業し、中国に留学していた日本人と結婚、平成6年に来日した。「日本人とチベット人の外見はあまり変わらず資源の乏しさも同じなのに、経済の力強さがまったく異なるのはなぜか」。日本が発展した理由を考えた時、教育の大切さに思い至った。日本の技術力等の背景に教育制度とそれを育む環境があり、それが国民全体の素

質を高めていることを知り、故郷に対して便利で近代的な生活道具などの支給支援よりも、教育による支援が、自立した将来のために重要であることを認識する。

氏は故郷への初等教育普及のため、平成9年に「チベット学校建設推進協会」を設立し、小学校建設運動を開始する。



▲平成11年に開校したヤンジン第一希望小学校
(出典：バイマーヤンジンホームページ)

チベットで小学校を1棟建設するのにかかる費用は、500万円から800万円。在日チベット人唯一の歌手としてチベット民謡を歌う氏は、費用を捻出するため、年間200回もの講演をこなしながら、日本各地を回った。多くの人々の支援もあり、蓄えた資金を学校建設に投じる。最初の小学校ができたのは平成11年。平成21年まで氏の援助により、小学校9校、中学校1校が開校し、現在3,000名の子どもたちが学んでいる。

また、同時に奨学金制度も創設、チベット自治区にある三つの大学の成績優秀者45名に支給を継続している。

また、平成20年に発生した四川大地震では、発災後まもなく、自らが出資し



▲チベット語作文集

(出典：バイマーヤンジンホームページ)

た100万円を元手に救済基金を設立。全国約20か所で開いたコンサートや講演会場でも寄附を募り、被害を受けた子どもたちの学費支援や倒壊校舎の修復費を援助した。

チベットの文化、チベット語の普及・保存にも力を注ぐことも忘れない。チベット語の作文集を毎月100校の小学校に贈る運動を行っている。

平成13年、小泉純一郎元首相が「米百俵」演説を行った日、氏は、真っ先に書店に並んで本を買い求めた。「私の実践してきた精神、そして、チベットに今、最も必要な精神とは、まさに米百俵の精神である」いつか、チベットでの人材育成が花開くことを信じて、氏は活動を続けている。

■受賞後の活動

氏は学校が開校してからも、教室・宿舍・食堂・正門・校壁の増築、給水塔や給水場の設置、運動場の拡張工事、屋根の修理、学用品・体育用品の贈呈など継続的に支援を行っている。

氏の援助により開校した九つの小学校、一つの中学校の卒業生は、今では小

学校や大学の先生、公務員、医師、銀行員などになり、社会の各分野で活躍している。氏は 25 年前にまいた種が花を咲かせ、確実に実を結んでいるのを実感している。

奨学金制度については、これまでの 3 大学に加え、平成 22 年から西南民族大学藏学学院、平成 23 年から西南民族大学芸術学院においても奨学金制度を開始。また、奨学金支援以外にも、難病にかかった学生には医療費を支援するなどの活動を行っている（※令和 3 年現在、政治的な状況からチベット自治区内にあるチベット大学、チベット医科大学、チベット農業牧畜大学への奨学金支援は休止している）。

令和 2 年以降は新型コロナウイルスの影響によりチベット訪問が叶わず、十分な支援ができない状況が続いているが、令和 3 年現在、氏は『グリム童話』や『赤毛のアン』など、世界の名作をチベット語に翻訳し、アバチベット自治州の小・中・高校に発送するプロジェクトを進めている。チベット語の普及と保護、そして次の世代にも民族の言葉を伝えていくための取り組みは続いている。

■主な受賞歴

○平成 13 年 大阪市「きらめき賞」



▲平成 15 年に開校したアバ県チベット語中学校
(出典：バイマーヤンジンホームページ)